

と記し、新唐書回鶻傳には

是歲(貞元六年)可汗爲少可敦葉公主所毒死……可汗之弟乃自立、迦斯方攻吐蕃、其大臣率國人、共殺篡者、以可汗之幼子阿撥嗣

と記し、唐會要、冊府元龜通好篇及び通鑑の記する所は舊唐書に同じ、此の如く忠貞可汗の死に就きては、兩唐書の記事に相異なる所あれども、然も可汗の殺されたる後、一時其の弟の自立したることは諸書の等しく記する所なりとす、然も多邏斯の弟の自立したる間は極めて短かりしが如く、前掲舊唐書の記事によれば、忠貞可汗の殺害も、阿撥の擁立も、皆此の年四月中の事件の如く思はる、然れども唐會要には忠貞可汗の死を以て單に「是歲」と記し、四月に及びて其の次相が篡者を殺して阿撥を立てたりとし、通鑑貞元三年の條にも、實錄に従ふとして、忠貞可汗の殺されたるを三月のこととし、次相が篡者を殺して阿撥を立てたるを四月のこととせり、思ふに正鶻を得たるものなるべし。阿撥奉誠可汗の死は新唐書回鶻傳によれば貞元十一年(七九五年)にして、舊唐書本紀及び通鑑によれば其の二月なるが、冊府元龜繼襲篇には貞元十年(七九四年)、唐會要には十年四月とせり、然れども思ふに後の兩者の記事は誤にして、前二者の記する所を以て正しとすべし、何となれば阿撥子無くして死し、國人宰相骨咄祿を立て、位を嗣がしむるや、唐は貞元十一年五月(二二八)新可汗に對して使を送り、冊して懷信可汗としたりしこと、舊唐書本紀、同書張薦傳及び冊府元龜封冊篇等に記する所にして疑ふ可き餘地無く、通鑑も亦之に従へり、然るに唐會要は此の事件を阿撥奉誠可汗の死に續けて掲げ、同じく貞元十年五月のこととせり、されば會要のこゝに十年五月と記せるものは、十一年五月を誤りたるものなること殆ど疑無く、從て阿撥の死を十年とせるものも之を